

花巻市社会教育委員会議 会議録

日 時 令和元年6月21日(金) 午後2時00分～午後4時00分
場 所 花巻市役所本庁舎 3階 委員会室
出席者 委員出席者15名 石橋恕篤議長、市川浜副議長、齊藤義宏氏、吉田靖雅氏、福盛田弘氏、伊藤昇氏、堀合範子氏、久保田廣美氏、鎌倉公順氏、藤原安生氏、伊藤晴二氏、菊池清氏、佐々木繁夫氏、藤本眞津子氏、門馬優子氏
委員欠席者5名 小原幸子氏、遠藤敦士氏、高橋和恵氏、太田達久氏、佐々木さつき氏
市側出席者5名 市川生涯学習部長、藤原生涯学習課長、小原生涯学習課長補佐、菊池生涯学習係長、藤村主査
説明者2名 佐々木国際交流室長、畠山市民生活総合相談センター所長、
報道機関 なし
傍聴者 なし
次 第 1 開会
2 あいさつ
3 委員紹介
4 議題
(1) 令和元年度事業実施計画等について
(2) 花巻市まちづくり総合計画第3期中期プラン(案)について
5 その他
6 閉会

1 開会 (開会 午後2時00分)

事務局(小原補佐) 皆様お疲れ様でございます。ご案内の時間となりましたので、開会させていただきます。次第に入ります前に辞令の交付を行います。

(部長から鎌倉委員に辞令交付)

事務局(小原補佐) 会議に入ります前に欠席委員の御報告をいたします。お手元に配付されております、社会教育委員名簿をご覧ください。欠席の報告がありましたのは、5番小原委員、9番高橋委員、11番太田委員、17番佐々木委員

の4名でございます。7番の遠藤委員からは御連絡いただいておりますが、まだ、いらしていません。

本日の会議につきましては、花巻市社会教育委員会議運営規則第7条の規定によりまして成立いたしますことを御報告いたします。それでは、ただいまから、令和元年度花巻市社会教育委員会議を開催させていただきます。開会に当たりまして、市川生涯学習部長より御挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

事務局（市川
部長）

皆さんこんにちは。今日はお忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。社会教育委員の皆様方には日ごろから社会教育、生涯学習の分野で御尽力を賜り感謝申し上げます。今日の会議では、まず、今年度どのような事業を行うか御説明申し上げます。それから、今年度、まちづくり総合計画第3期中期プランを策定することとなっておりますので、これまでの社会教育、生涯学習の施策等に御意見をいただき、併せて来年度からの4年間の計画作りに御意見をいただきたいと考えております。いろいろな社会問題、事件も青少年に関するものに限らず大人の問題も浮上している世の中ではありますが、社会教育、生涯学習の分野から何かできないかと思っておりますので、御意見を賜ればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（小
原補佐）

続きまして石橋議長より御挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

石橋議長

皆さん、こんにちは。石橋でございます。よろしくお願いいたします。本来の趣旨に合うかどうか分かりませんが、私は子どもが親のしつけとして、それが元で命を落とす事になったというニュースに非常にショックを受けております。しつけということですから、親は懲戒権の行使をしたと恐らく言いたいのだろうと思いますが、懲戒権は一体誰のためにあるものなのかといいますと、私の考えでは一つは子供の利益だろうと、もう一つは子供の勿論教育だろうと思うわけです。ところが今回起きた事件は、親の指示に従わなかったからと言っております。懲戒権の原則、限界はどの辺にあるか。一方的に親の意見に反対したからやる事は非常に残念なことだと思います。

何を言いたいのかというと、たとえ子供であっても、言って聞かせることが大事ではないかと思えます。私の経験からもそう感じております。ひとつ言って聞かせる雰囲気は教育の力も大事ではないか、特に、社会教育という観点からも大人の教育についても、自覚してもらような形にできたら、こんな悲しい出来事が二度と起こらないのではないか、あるいは少なくなるのではないかと感じておりました。そういう意味で、社会教育あるいは社会教育委員の皆様方のお力は大変なものだろうと思えます。そういう点も併せてお考えいただいて、問題に対処できればいいなど、変な話ばかりしてしまいましたが、御挨拶といたします。ありがとうございました。

3 委員紹介 (自己紹介)

4 議題

事務局(小
原補佐)

それでは、早速でございますが、次第4番、協議に入ります。

これからの進行につきましては、石橋議長様よろしく願いいたします。石橋議長様と市川副議長様には前の席に移動をお願いいたします。よろしく願いいたします。

石橋議長

それでは早速議事に入らせていただきます。(1) 令和元年度事業計画等について御説明をお願いいたします。

事務局(藤
原課長)
畠山所長
佐々木室長

(資料にもとづき説明)

石橋議長

議論の順序としては、生涯学習機会の充実、青少年の健全育成、国際交流の推進と順番に扱っていきたいと思えます。まず、生涯学習機会の充実という観点から、御質問を頂戴できればと思えます。

藤原委員

県立生涯学習推進センターの藤原でございます。よろしく願いいたします。今、御説明にあった1枚目の花巻市と遠野市の連携事業の件と、地域生涯学習担当者研修、この二つについて御質問させていただきます。まず花巻市と遠野市の連携事業、自治体の枠を超えて広域的な事業展開を計画していらっしゃるということで、大変素晴らしい

ことだと思えますし、市民の皆さんがそれぞれの興味関心に沿って、より広くこの学習機会を求めて学ぶことができる点でも、大変素晴らしいことだと思えます。それで、この新しい事業について周知を図っていかなければならないと思えますが、どのような工夫を考えているのかという点についてお聞きしたいと思います。

もう一つは、その地域生涯学習担当者研修について、やはり花巻市が独自の事業を展開するという一つの柱と、もう一つは地域の皆さんが主体的に学習を進めていくことが必要だと思えますので、この事業は大変有意義な事業だと思えます。学びと、これからの活動がつながるような事業展開を期待するところですが、今年度どのような内容を予定しているのか、現時点でおわかりになる部分があれば、お聞かせいただければと思います。以上2点です。

石橋議長

ありがとうございます。藤原課長。

事務局(藤原課長)

ありがとうございます。花巻・遠野連携まなびキャンパスカードの広報、周知方法について、別枠で御説明しようと思っておりましたが、今、御質問ございましたので、御説明をいたします。皆様のお手元に資料が配布されていると思います。花巻・遠野連携事業は、県南振興局が音頭をとっている事業でございます。平成28年度から実施しています。今年度は当課で実際に展開しております、まなびキャンパスカードを遠野市と一緒に連携して、実施するものです。

目的は、実施要項に書いてございますが、花巻市と遠野市の広域連携による相互交流と効率的な事業推進を目的に対象施設を拡大して、次代を担う両市の児童生徒が文化観光施設を通じて互いの歴史や文化に触れる機会を創出して、郷土理解の促進と広域の交流人口の拡大を図るものでございます。対象者は花巻市、遠野市に在住する小学生、中学生、高校生と花巻市、遠野市の高等学校に在籍する生徒、花巻市、遠野市に在住する小学生及び特別支援学校の生徒、付き添いの者1名。ただし、遠野市内施設の場合は、中学生及び高校生と保護者1名も対象とします。事業実施期間は7月1日から3月31日までの土日祝祭日及び学校長期休業期間で予定しています。花巻市の対象施設ですが、花巻市の対象施設20のうち、文化施設12施設です。遠野市は伝承園、たかむろ水光園等施設を対象として行います。周知方法は、来週26日の記者会見の席上で行います。遠野市の日にちは分かりかねますが、記者会見を行いますし、既に学校には、チラシを配布させていただい

ているところでございます。あとは記者会見等で新聞等に出ない場合を考慮し、マスコミには投げ込みをし、周知を図ろうと思っております。

地域生涯学習担当者研修会でございます。御案内の通り花巻には27コミュニティ会議がそれぞれの地域で生涯学習を実施しているところでございます。平成28年度からは、職員が引き上げたこともあり、生涯学習の部分は当課が中心となって支援をしています。今年度の事業についても、さまざまな課題等がございますので、課題に則った形で展開していければと思っております。研修は今年度3回予定しています。各コミュニティ会議の中での生涯学習活動、事業でございますが、単独で頑張っているのは勿論承知してございますが、横断的に連携して事業をやろうという流れが出まして、実際、横断的に複数のコミュニティ会議が連携して行っている事業もございます。お互いの刺激となり、非常にいい事業だと思っております。逆にそういう横断的な連携の中からこちらも参考にして、今後の生涯学習事業の展開につなげていきたいと思っております。

石橋議長

ありがとうございました。ほかに御質問ございませんか。どうぞ。

鎌倉委員

資料見させていただきました。どういう世代が講座に参加しているのか見えてくれば、市でも対象や内容の検討などの色々なやり方があると思います。若い人たちは、恐らく講座が開設しているのも知らないのと、現役で仕事をされていれば、忙しい中で講座に参加することが難しいだろうと思うので、若い世代が参加しやすい対策をとっているのかを、少しお聞きしたいと思います。

事務局（藤原課長）

ありがとうございます。まず世代構成でございますが、シニア世代が多いのが全体的な傾向でございます。若い人向けの方策でございますが、昨年度末に若干予算があった部分がございます。SNSを使っただけの募集を試しにやってみたところ、案外応募がありました。今の若い人たちはよくSNSを見ている、利用しているので、こういった形での取り組みもあるのではないかとということでした。今年度は、そういう取り組みが必要である、効果的だと分かりましたので、それを生かした展開も考えていきたいと思っております。

石橋議長

ありがとうございました。ほかに御質問の方いらっしゃいませんか。

なければ、それでは次に進んでよろしいでしょうか。後からまた、質問したいという方がおれば御意見をお伺いいたします。

(発言するものなし)

石橋議長 無いようですので次に進ませていただきます。2番目は、青少年の健全育成の推進について御質問を頂戴いたしたいと思います。はい、市川委員。

市川副議長 青少年の非行防止にかかわることで、最近の市内における青少年の非行の動向は、どのような形になっているものか、分かったらお聞かせいただきたいと思います。

畠山所長 当方の少年補導委員が補導に回っておりますが、当方の班の少年補導員は、日中、仕事が終わってからなど遅い時間ではないので補導はありません。花巻警察署の方々は深夜等にパトロールしており、花巻市としては深夜徘徊が1番多いとなっております。平成30年度は深夜徘徊が140、昨年度は154になっております。ただ、子供たちが真夜中に歩いているのかというと、学識別補導状況によれば、深夜徘徊をしている未成年は、主に大学生が48名になっております。

深夜徘徊は、23時から4時という時間帯において未成年がいた場合となっております。あとは有職少年といった、お仕事をしている未成年者、無職少年もおりますが、大学生と有職少年の深夜徘徊での補導が1番多い状況でございます。

石橋議長 ありがとうございます。ほかにもございませんか。僕からお伺いしてよろしいですか。非行はどのようなものを言っておられるのでしょうか。

畠山所長 非行は非行少年等という言葉がありまして、具体的に言いますと、犯罪少年と言って14歳以上から20歳未満で犯罪を行った少年、触法少年と言って14歳くらいで刑罰法に違反する行為をした少年、虞犯少年といった性格や行動などから見て、将来犯罪を行う、また刑罰法令に将来触れる恐れがある少年といった方々を非行少年等ということですので。あとは非行少年等に不良行為少年というのもありまして、犯罪をする非行少年には該当しないが、飲酒、喫煙、喧嘩その他の自己または他人の特性を害する行為をした少年を不良行為少年としており、こ

れらが非行少年等となっております。

石橋議長

ありがとうございます。少年法の定義と同じですね。わかりました。ほかに御質問はございませんでしょうか。堀合委員、お願いします。

堀合委員

2番目の青少年の健全育成の質問で、それに関わった市民の割合とあります。自分も生涯学習に皆無とか、仕事で取り組む余裕がないと答えてる方もいらっしゃるときに、あなたは青少年の健全育成に関わったかとなると、市民に求める数値が高いのではないかと実は思っています。私自身を考えても青少年の健全育成は、保護司をしているので10代の人との面接や、ユネスコでは高校に行き国際理解講演会もあります。私がもしそれに携わっていなければ、答えるのは非常に難しいかなど。例えば、少年補導員とか、青少年の健全育成に関わっている方以外の一般市民の方が、活動に関わっていることを期待なさっているのでしょうか。

石橋議長

いかがですか。市川部長。

事務局（市川部長）

最初の計画を作る際の指標で市民アンケートをとっておりまして、その中にある項目です。こういうアンケートは主観的なので自分が携わっているかを判断するのは難しいと思います。想定しているのは、例えば、PTA活動、交通安全で学校に行く子供たちを見守る、あるいは民俗芸能などを子供たちに教えているなど、色々あると思います。自分が健全育成に関わっていると思うかという問題もありまして、なかなかアンケートで指標をとるのは難しいと考えています。最初はこういう計画で指標をとって、それを目安に施策を組んでいきましょと、10年計画で行っているんで、途中で変えられないという問題点もあります。そのあたりは少し課題であると思っております。

石橋議長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。ほかに御質問のある方いらっしゃいませんか。

(発言するものなし)

石橋議長

では、意見がないようですので次に進んでよろしゅうございますか。国際交流の推進について御質問のある方。はい。門馬委員。

門馬委員 青少年の海外派遣研修事業について、市内中学校2年生、各6名の派遣になっているようですが、4地域からはどのような形で選ばれているのですか。

佐々木室長 4地域からお話がありましたが、市内中学校の生徒全員に希望をとっております。その中で、なるべく希望に沿うように派遣をしております。そうは言いながらも、もともとの交流のあった地域、例えば大迫はベルンドルフ市、石鳥谷はラットランド市、東和町はクリントン村というように、生徒が入るような配慮をしながら行っております。

門馬委員 ありがとうございます。今年度はクリントン村からの来花はないということでした。これまで絶え間なく受け入れてきたのに、今回に限り何かの事情で受け入れない、いらっしゃらないということですか。

佐々木室長 クリントン村については、いらっしゃれないことは初めてではなく、3年前と4年前にもございました。昨年は2年ぶりにいらしたということになります。向こうの方に理由をお聞きしたところ、5人以上の希望がなければ派遣をしないというルールがクリントンの中学校ではあるようです。希望する中学生の数が5名に達した年にいらっしゃることができるかと聞いております。

門馬委員 こちらから行く分には問題ありませんか。

佐々木室長 向こうの受け入れがどうなるのかお聞きしております。向こうでは、海外の国々との生徒の交流事業を行っているので、日本からの生徒の受け入れだけでも可能であると聞いております。

門馬委員 ありがとうございます。

石橋議長 ありがとうございます。国際交流についてほかに御意見、あるいは御質問のある方いらっしゃいませんか。はい、どうぞ。

菊池委員 菊池と申します。今住んでいる方々との交流事業が他文化サロンということでしょうか。こちらからもう少し、言い方は変ですけど、手を差し伸べるというのはいないでしょうか。というのは、政策検討シー

トに、定住外国人の日本語学習を支える人材を確保するとともに養成する必要があると書かれていたので、具体的にあれば教えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

佐々木室長

事業の中には含まれておりませんが、国際交流協会の事業として、定住外国人支援事業を行っております。主な中身は、今、委員がおっしゃった日本語の講座を開催しております。こちらは国際交流協会の事業として、今のところ年に1回の開催です。行っているグループの人数が少ないこともありまして、メンバーに入っていただけの方を探しております。

そのほか、花巻にお住まいの方々に対しても、いろいろな多文化サロンや、講演をいただいたり、国際フェアのお手伝いをしていただき市内の子供たちと触れ合うといった事業を行っております。今後は、市内で働く様々な国の方が参加できるような場を設けていきたいと考えております。

菊池委員

定住外国人の方に日本語を教えるのは何か資格が必要だと聞きましたが、そういうことはないのでしょうか。

佐々木室長

こちらで承知している、市民で日本語を教えているグループは一つだけですので、その方々のことになります。その方については資格があります。ただ、必ずしも資格がなければ教えられないかといいますと、今のところはそうではなく、指導してくださる方と一緒に教える分には当人に資格がなくても可能ではないかと思っております。ただ、それに慣れるまでは時間を要すると思っております。

石橋議長

ありがとうございます。ほかに、御質問ございませんか。改めて伺いたということなどはございませんでしょうか。はい、どうぞ。

鎌倉委員

社会教育委員が担う部分なのか分かりませんが、最近の花巻まつりの子供の参加率がすごく少ないです。それは親にも原因があるのですが、例えば、子供が祭りに出ると、親の付き添いが必要となるから、それが面倒で出さないということがあります。花巻まつりに関わらない子が多くなると、この先継続できるかということがあります。そういう意味では、小学生、中学生に対して、花巻まつりの歴史や文化、続けていく上での大事な部分を教えていくのも、今やるべき事だと思

います。それが社会教育の担であれば一つ考えていただきたいと思
います。子供が参加していかないと、花巻まつりは永続的に続いてい
かないだろうと思えます。社会教育という観点からどうしていけばいい
のかをお聞きしたいと思えます。

石橋議長

ありがとうございました。藤原課長、今の御質問は大きく二つあ
ったように思われます。一つ社会教育委員会の問題なのかということ。
それから、もしも、それにかかわるのであれば子供の参加が非常に少
ないのではないかと、将来が心配だという趣旨の御質問だったように
承っておりますが、いかがでございますか。

事務局（藤
原課長）

1点目でございますが、生涯学習は御案内のとおり広い守備範囲で
ございますので、何かの講座に絡めて、例えば花巻まつりに限らず、
地域の祭りのようなもので、展開する方策はあろうかとは思っており
ます。今年度は、可能性とすれば社会教育、生涯学習の分野で触れら
れると思えます。あとは、児童生徒数の減少に限らず人口減少は、い
ろいろな部分で影響があると思っておりますし、あとで申し上げます
第3期中期プランの部分でも分析し、そうであれば、どう展開してい
くべきかを、皆様方に逆に投げかけていきたいと思っておりますので
ございます。

石橋議長

鎌倉委員さん、よろしゅうございますか。ありがとうございました。
ほかに、御意見等ございませんでしょうか。無いようでしたら、次の
問題に移らせていただいてよろしいでしょうか。

（発言するものなし）

石橋議長

次の花巻市まちづくり総合計画第3期中期プラン（案）についての
御説明をお願いいたします。

事務局（藤
原課長）

（資料にもとづき説明）

石橋議長

ありがとうございました。今、説明をしていただいたところで何か
御質問等ございませんでしょうか。あるいはもう少し具体的にどうなんだろう
かということはございませんでしょうか。はい。久保田委員。

久保田委員

ふれあい出前の講座や講師でいろいろ掲げておりますけども、講師登録をしが声がかからないという場合もあります。またいろんな講座に参加できる人はいいですが、開催時間帯等の問題で、参加できないことがあると思います。その辺はどう捉えていますか。

事務局（藤原課長）

非常に難しいところでございます。講座1回ごと、全部の講座、事業終了ごとにアンケートを取り、それを踏まえて時間帯なり曜日なり検討は進めてございます。担当者も皆、真面目にいろいろ検証を重ねながらやってございます。先ほど御質問にあったSNSを使った周知、あるいは募集といった形というのは、そういう反省点から出てきた、新たな動きじゃないかと思っております。いろいろな部分で難しい面は確かにございますし、急激には変化をしていかないと思っておりますけれども、今のニーズ、周知方法なりをつぶさに検証して、さらに展開して進めているところでございます。

石橋議長

ありがとうございました。はい。佐々木委員。

佐々木委員

青少年の社会参加について、コミュニティというのはとてもいいことだと思います。市内のコミュニティの青少年向けの事業は映画会が非常に多い気がします。どういう形で子供たちに参加させるか、モデルになるコミュニティがあると思います。もしなければ、3年生から参加できるおもしろ探検隊、田瀬湖でしているような実践的な関わりをしている拠点のコミュニティを呼んで、地域生涯学習担当者研修で事例を紹介しながら啓蒙を広めていくのも一つではないかと思えます。あるいは、7月に実施する市内小学生のサマーキャンプin戸塚森などの実践例を地域の実践家を集めた場でPRすることも必要ではないかと思えます。

事務局（藤原課長）

大変ありがとうございます。実はここで分析しているとおり、人口減少との絡みで青少年に限らず参加する環境が薄れてきている部分もあると思ひ、コミュニティ会議との連携を掲げています。コミュニティ会議に全てを委ねるという意味ではなく、あくまでも連携して考えようということです。このような分析をしたので、先ほど佐々木委員がおっしゃったとおり、地域生涯学習担当者研修でも反映できないか、先進事例や興味を持つような講座の展開など、どこかに組み入れられ

ないかというお話はしています。こういった課題があるというのは、部内でも課内でも共有していますので、コミュニティを支援する事業の中で、紹介するなり、啓蒙というか展開して参りたいと思っております。

石橋議長

ありがとうございます。他に御質問ありますか。

堀合委員

意見ですけれども、青少年の社会教育でコミュニティ会議と連携してというのは、とてもいいことだなと思っております。と申しますのは一つの例として、石鳥谷の八幡地区ですけれども、今度、田んぼアートに新堀のコミュニティの子供たちも一緒に参加して、人数が160人程度と増えました。今後は稲刈りなども一緒にするのではないかと思います。子供たちが地域の人、そして自然と関わって体験できるという体制はコミュニティですと、移動の車など親御さんが忙しくても地域の人と一緒にいけるなど、そういった意味で子供たちも中に入りやすくいいなと思っております。これを読ませていただきました。

事務局（藤原課長）

ありがとうございます。八幡と新堀につきましては、今年度田んぼアートの部分で展開と伺いました。また、この地区は石鳥谷大橋が架かっているため、橋の景観の美化に二つのコミュニティが関わっていると聞いています。こちらでは青少年教育について市とコミュニティ会議が連携することで掲げましたけれども、一つのコミュニティに限らず、横断的な部分での展開も考えていく必要があるのではないかと意見を聞いて承ったところでございます。

石橋議長

ありがとうございました。ほかに御意見ございませんか。

藤原委員

私も今の青少年の社会参加活動についてひとつ御意見を申し述べたいと思いますが、今の事例、大変すばらしい事例だなとお伺いしました。その中で、地域コミュニティ会議と青少年の健全育成社会参加活動を進めていく上で、やはり大切な視点として、子どもたちがお客様にならない視点が大切なのではないかなと思います。子どもたち自身がやっぱりこれをやりたいあれをやりたい、そういったアイデアを地域の皆さんが吸い上げて、子どもたちが主体的に関われるような、そういった中で子どもたちがその活動をしたことで、成就感、満足感を得られるような、ぜひそういった活動に工夫をしていただければ、

子どもたちがより地域のすばらしさを実感することができて、次にまたつながる、そういった活動になるのではないかなと思います。そういった点を少し柱に入れていただきながら、今後、次の計画を立てる際にお考えいただければと考えております。以上です。

石橋議長

ほかに。ございませんか。門馬委員。

門馬委員

この分析はごもっともだと思います。本当にシニア大学の受講生の中には、立派な指導者になる人材もいっぱいいると常日ごろから感じております。その方々には活発に活動していただきたいと思います。また、生涯学習団体には若い人たちがなかなか入りませんが、けん引役も若返らなければと思いながら活動しております。青少年の社会教育にも関わるとは思います、自分の住んでいるコミュニティ会議のことしか分かりません。小中学生のお子さんを持っている若い世代は忙しいですし、講座を開設しても参加できないと思います。しかしその世代が主体的に地域をつくっていく観点からすると、やがて次代を担うリーダーたちを育てていかないと、生涯学習そのものは廃れていくと思います。

講座を提供するのも大事ですけど、リーダー育成を地域生涯学習担当職員の会議や集まりのときに話題にさせていただいて、地域のリーダー的な人を見つけ出し、養成、育成していくという活動も並行してやっていただきたいと思います。以上です。

石橋議長

ありがとうございます。藤本委員。

藤本委員

私は門馬さんがお話しいただいたものに賛成です。私の地元コミュニティは何を研修しているのか、どんな活動しているのかと考えたときに、お正月近くなれば子供たちにしめ縄飾りなどを実施しています。すごくいいことだと思いますが、地域生涯学習担当者研修会に参加し勉強したことが、果たして反映されているのかと悶々としていました。ですから先ほど、子供たちが研修会にお客様ではなく、参画できる活動にしてほしいという意見が出ましたが、それは今後のコミュニティとの連携を保つためになくてはならないものだと思います。これは意見です。今後の担当者研修会において、リーダー育成を考えていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局（藤原課長） リーダー育成という観点が出てきましたが、今後の事業を進める上で大事な視点ではないかと思ったところでございます。

佐々木委員 佐々木と申します。質問です。高校生ボランティア研修1回とありますが、どのようなことで何人が参加しているか伺いたい。青少年の健全育成の推進、平成30年度です。

事務局（藤原課長） 昨年度でよろしいでしょうか。花巻おもしろ探検隊、6回の事業の中でキャンプがあります。昨年度はキャンプに当たっての支援で、高校生の方々にお手伝いをいただきました。小学校3年生から6年生までの児童が対象ですが、その方々のリーダーということで、ある程度自覚も芽生え、責任感も出てくるのではないかと、キャンプに当たってのお兄さんの、お姉さんの役割をお願いしました。

佐々木委員 子供たちの参加とありますが、大人と子供たちの間に立つ高校生の活用もできればという要望です。例えば、青年会議所でも高校生ボランティアとしてやった活動もありますし、あと寺子屋塾ではサブリーダーとして高校生が参加している。例えばおもしろ探検隊だけではなく、市内の希望者を募って、市のイベント、地域のイベントで希望者が参画する方法も必要ではないかと思えます。以上です。

石橋議長 高校生の活用についてどうかというお話でしたけれどもいかがでしょうか。

事務局（藤原課長） 大変有益な御意見だと思っています。個人として、要綱や展開が思い浮かんではいませんが、今すぐお答えしかねる部分がありますが、御意見として承りたいと思っています。

石橋議長 ありがとうございます。関連質問だそうです。市川委員。

市川副議長 これまで話し合っている高校生のことですが、今度、青少年育成市民会議で開催するサマーキャンプも総合的な指導は佐々木先生にさせていただきますが、高校生に全面的な指導的役割を担ってもらおうと。果たしてどの程度、どのようにいくかは疑問に思うところもありますけれども、私たち大人はあまり出ない。当日のサマーキャンプでは、高校生16名が全面的に小学生の指導に当たることを実践してみよう

という計画を立てております。今の状況を参考までにお話しました。

事務局（藤原課長）

大変ありがとうございます。当課としてもサマーキャンプに4名ほど勉強にいかせまして、今回の先駆的な部分を研修させていただきたいということでございます。よろしく申し上げます。

石橋議長

ほかに何か御意見ありますか。久保田委員。

久保田委員

サマーキャンプのボランティアの方々ですが、小学校のときに、例えばサマーキャンプに参加して、そのときの思いがあって、高校になって一緒にやりたいという思いを持って参加している方はいますか。それが今の生涯学習の継続に繋がっていると思いますがその辺はどんな感じでしょうか。

市川副議長

市川です。全部が全部というわけではありませんが、小学生のときに参加して、その当時いろいろお世話してもらった高校生の姿を見て、私も高校生になったらこうなりたいと思って、高校生になって進んで参加する子は、何人かあるようです。ちなみにその子は、今度リーダーの中心になってくれる女の子です。高校3年生ですが、1年生、2年生、3年生と3年続けてリーダーとして参加してもらっております。どのくらい発揮してもらえるかちょっと楽しみにしております。

伊藤委員

伊藤です。先ほどから問題になっている子供の参加について、なかなか子供向けの行事を作成して引っ張ってこようといっても難しいと思います。興味を持っているごく一部の者は参加するかもしれませんが、大多数の子供はほとんど見向きすらしないのが、実際のところではないかと思います。私は先ほどから出ている子供の、中学生から高校生という年代を考えると一番は地域の中で、例えば学校とコミュニティが連携をする、これが大事だと思います。

私が住んでいる笹間では、笹間を知ろうと笹間第1小学校が去年から笹間八景の全校遠足を始めています。八景が校歌になっているので、それを辿っていこうということです。ところが非常に難しい問題で、大人ですら分からないのに小学校でやろうとしている。したがってコミュニティと学校との連携によって地域を発見する機会を与えていくのが大事だと思います。

昔は、総合的な学習で地域学習が盛んでしたが、今はほとんど体験

学習になっていて地域に目が向かない状況にあります。そこはコミュニティの生涯学習担当と各学校担当者が連携して行うことで、子どもたちが成長とともに、地域の良さなりを見出していくのではないかと感じております。以上です。

石橋議長 ほかに御意見はございませんか。藤本委員。

藤本委員 質問になりますけれども、まなびキャンパスカードの件です。夏になるとスポーツ施設はたくさんの利用者があると思いますが、延べ人数15,000人の大体の割合はどんなものなのでしょうか。4地区の割合、文化施設の割合など、もし分かればお願いしたいです。

事務局（藤原課長） 今ちょっと手元にそれはありません。

石橋議長 では、ちょっとお待ちいただいて、ほかに。御意見はございませんでしょうか。福盛田委員さんいかがですか。何かございませんか。

福盛田委員 まなびキャンパスカードに関連してですけれども、花巻市の施設ばかりではなく遠野市も入館者が減少している傾向です。なかなか増えていない状況で、小中高校の生徒たちに来ていただくため、昨年、新渡戸記念館館長が学校を回りながらPRをしました。先日の新渡戸記念館運営委員会の結果ですと来館した学校が1校しかなかったそうです。地元の学校でさえ来ないのに遠野市からなぜ来るかという疑問があります。やってみなければ分かりませんが、これに掲げて旗振りしてもなかなか今の子供たちは興味が持てないとこれない。そういう現状があると思います。それを解消するためには、学校のカリキュラムの中でも、花巻を知ろうといった事業のもとに、参加する人が増えてくれるのが望ましいのかなと思います。本当に頭を痛くしている現状なので、集客にいろんな知恵を絞っていただきたいと思います。以上です。

石橋議長 ほかにはございませんか。

吉田委員 花巻北中学校、吉田です。先ほど施設の利用等、本校でもいろいろと検討はしていますが、1番のネックは、中学生、小学生とも授業内

容が決まっている。それから時間があっても交通手段、旅費がない。保護者にさらに臨時集金を求めることはなかなかできない状況である。例えばバスで半日使うと、他教科にもかなり影響がある。そして土日は完全土曜日休みですので、先生方はもちろん、子供たちもかなり窮屈な中で授業をしている。先ほどから協力などを考えてますが、私ども完全学校教育という立場から考えれば、物理的に難しい状況だと感じています。

ただ、現状を申しますと、部活動でかなり頑張りたい子と、もう部活動はいいという子と、かなり両極端に分かれています。今、うちで1番多い部活動は総合文化部といって、吹奏楽とか、運動クラブには属さず、文化的な活動、あるいは理科的な活動をするなど、別な形で活動をやってる子供たちです。その子供たちは逆にちょっと時間があるのかなと感じております。

総じて中学校についてお話ししますと、限られた時間で、部活動やいろんな活動を行い、学校としても行きたいが実際には旅費がない、お金がない、時間がない現状です。そういう問題がクリアできないがためかなと思っています。

ただ本校の場合は、住宅地、新しい家が多いので、32年目になりましたけれども、学校や地域でやれることは、どうしてこの学校があるのか、校歌の云われはなど学校に関係する何かで子供たちに意欲づけの形で進めているところです。前任校の西南中学校では、伊藤先生にかなりお世話になりました。色々な形で地域を学ばせることを努力はしているつもりですが、やはり1番のネックは、行って見てもらいたいが時間とお金がないということです。

石橋議長

学校現場の厳しい現状についてお話をいただきました。

事務局（藤原課長）

先ほどの藤本委員の質問にお答えしたいのですが、地域ごと学校ごとは把握してございません。まなびキャンパスカードを利用した施設ごとの人数でもよろしいでしょうか。一つずつお答えします。花巻市博物館が790人、宮沢賢治記念館が286人、宮沢賢治童話村1,110人、花巻新渡戸記念館が76人、花巻市民プールが5,413人、鉛温泉スキー場が1,236人、農業科学博物館が205人、総合文化財センター287人、石鳥谷歴史民俗資料館28人、石鳥谷農業伝承館15人、南部杜氏伝承館17人、石鳥谷アイスアリーナ3,042人、萬鉄五郎記念美術館483人、東和のB & G海洋センターが31人、和田プールが2,673人、そして高村

光太郎記念館178人で計1万5,744人でございます。もちろんこれはまなびキャンパスカードを利用したということなので、当然それ以外に、一般でこられた方はカウントされてございませんので申し添えます。

石橋議長

どうもありがとうございました。特に聞いてみたいことがございますか。御意見は尽きたと思われまますので、これをもちまして本日の議題を終了させていただきたいと思ひます。どうもありがとうございました。

5 その他

事務局（小原補佐）

石橋議長様ありがとうございました。それでは次第の5番、その他に移りたいと思ひます。その他、事務局からございますのでお願いいたします。

事務局（藤原課長）

先ほどまなびキャンパスカードの連携型については御説明いたしましたので、もう1点、第41回全国公民館研究集会、令和元年度東北地区社会教育研究大会、第64回東北地区公民館大会の岩手大会が10月17日から18日の2日間、マリオスとアイーナを会場に行われます。先に県の社会教育連絡協議会でお示しされたものでございます。今年度は岩手県が会場になります。関心のある分科会等もございますので、ぜひたくさんの方々、委員の皆様方にも、ご参加等をお願いしたいということでお示したところでございます。以上です。

事務局（小原補佐）

この件につきまして何かございますでしょうか。

（発言するものなし）

事務局（小原補佐）

委員の皆様から何かございましたらお願いいたします。

（発言するものなし）

6 閉会

事務局（小原補佐）

長い時間にわたりまして、委員の皆様からたくさん貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。これをもちまして、令和元年度第1回花巻市社会教育委員会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。